

平成26年度地域リハビリテーション調整者養成研修の開催結果について

1 目的

今後、高齢者及び障害者の認定割合の増加に伴い、ますます増加していくリハビリの需要に対応していくために、地域リハビリテーション広域支援センターと地域包括支援センター・市町村の協力体制の構築を目指し、相互理解を図る機会として、本研修会を開催する。

2 対象者

地域包括支援センター職員、市町村保健福祉関係職員、地域リハビリテーション広域支援センター職員

3 実施日

平成27年2月12日（木）、13日（金）

4 会場

千葉県教育会館203会議室（千葉市中央区中央4-13-10）

5 内容

講義

①地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について

千葉県 健康福祉部健康づくり支援課地域リハビリ班長 嶋野奈緒美氏

②リハビリテーション概論

千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長 吉永勝訓氏

③リハビリテーション専門職の活用 その1～市町村介護予防の取り組みより～

・船橋市 健康福祉局健康部健康政策課 課長補佐 斎藤伸也氏

・船橋市 健康福祉局福祉サービス部包括支援課 主任技師 松川基宏氏

④リハビリ潜在需要の早期発見

旭神経内科リハビリテーション病院長 旭俊臣氏

⑤地域包括支援センターから、広域支援センターへの相談とその後について

亀田訪問看護センター リハビリテーション室主任 佐伯考一氏

⑥リハビリテーション専門職の活用 その2～地域包括支援センターとリハビリテーション専門職の関わり方①～

・千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション療法部長 宮前信彦氏

・千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部地域支援室長 田中康之氏

⑦リハビリテーション専門職の活用 その2～地域包括支援センターとリハビリテーション専門職の関わり方②～

・千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部 理学療法士 北郷仁彦氏

・千葉市あんしんケアセンター幸町 管理者・主任介護支援専門員 中村信子氏

グループワーク

「地域リハビリテーション推進のために～各々に出来ることを考えましょう～」

千葉リハビリテーションセンター 地域連携部地域支援室 田中康之氏・北郷仁彦氏

6 参加人数

2月12日（木）56名

13日（金）55名 2日間延べ111名

7 参加者職種

保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、介護支援専門員、社会福祉士等

8 受講者アンケート結果

別紙のとおり

平成26年度 地域リハビリテーション調整者養成研修 プログラム

会場：千葉県教育会館 203会議室

平成27年2月12日（木）10：30～16：00

時 間	内 容	講 師
10：00～10：30	受付	
10：30～10：40	主催者あいさつ	千葉県健康福祉部健康づくり支援課長
10：40～11：00	地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について	健康づくり支援課
11：00～12：00	リハビリテーション概論	千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長 吉永 勝訓氏
12：00～13：10	(休憩)	
13：10～14：00	リハビリテーション専門職の活用 その1 ～市町村介護予防の取り組みより～	・船橋市健康福祉局健康部健康政策課 課長補佐 斎藤 伸也氏 ・船橋市健康福祉局福祉サービス部包括支援課（訪問看護 ステーション）主任技師 松川 基宏氏
14：00～15：00	リハビリ潜在需要の早期発見	旭神経内科リハビリテーション病院（東葛北部 地域リハビリテーション広域支援センター） 院長 旭 俊臣氏
15：00～15：10	(休憩)	
15：10～16：00	地域包括支援センターから、広域支援セン ターへの相談とその後について	亀田訪問看護センター（安房地域リハビリテ ーション広域支援センター） リハビリテーション室主任 理学療法士 佐伯 考一氏

平成26年2月13日（金）10：00～16：00

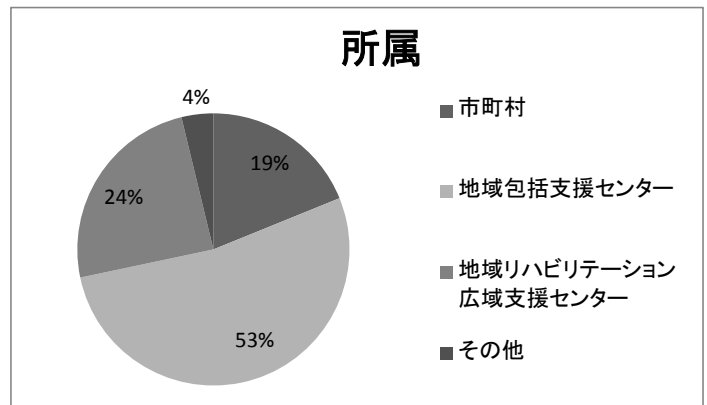
時 間	内 容	講 師
10：00～10：05	あいさつ	健康づくり支援課
10：05～11：00	リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテ ーション専門職の関わり方①～	・千葉県千葉リハビリテーションセンター リハビリテーション療法部 部長 宮前 信彦氏 ・千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部地域支援室 室長 田中 康之氏
11：00～12：00	リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテ ーション専門職の関わり方②～	・千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部地域支援室 理学療法士 北郷 仁彦氏 ・千葉市あんしんケアセンター幸町 管理者・主任介護支援専門員 中村 信子氏
12：00～13：00	(休憩)	
13：00～16：00	グループワーク 「地域リハビリテーション推進のために～ 各々に出来ることを考えましょう～」	千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部 地域支援室 室長 田中 康之氏、理学療法士 北郷 仁彦氏

H26年度地域リハビリテーション調整者養成研修受講者アンケート結果

回答率	94.6%
-----	-------

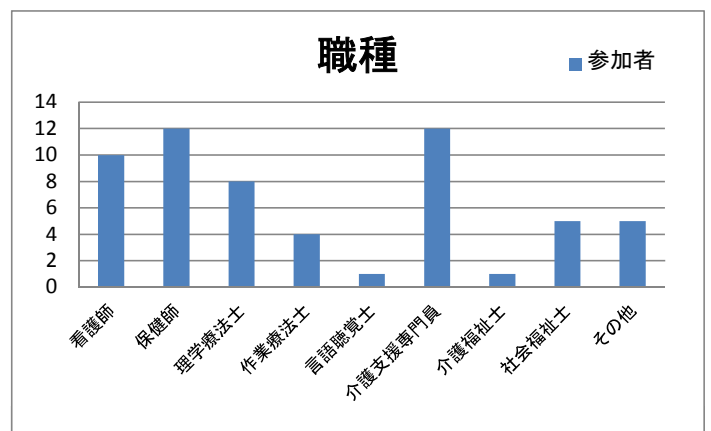
1 所属

市町村	10
地域包括支援センター	28
地域リハビリテーション広域支援センター	13
その他	2



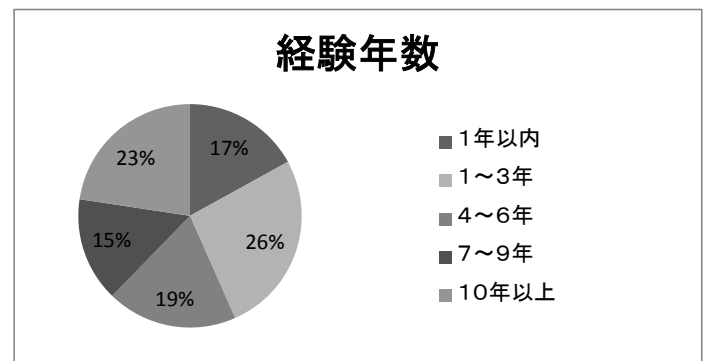
2 職種（複数回答有）

看護師	10
保健師	12
理学療法士	8
作業療法士	4
言語聴覚士	1
介護支援専門員	12
介護福祉士	1
社会福祉士	5
その他	5



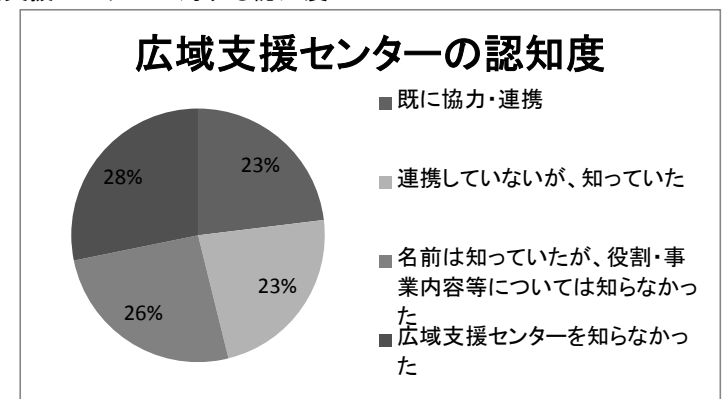
3 経験年数

1年以内	9
1～3年	14
4～6年	10
7～9年	8
10年以上	12



4 研修参加市町村・地域包括支援センター職員の広域支援センターに対する認知度

既に協力・連携	9
連携していないが、知っていた	9
名前は知っていたが、役割・事業内容等については知らなかった	10
広域支援センターを知らなかった	11



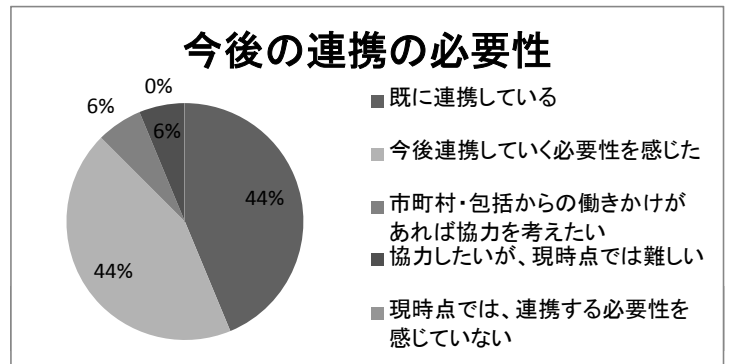
5 講義内容等

	5とても役に立った	4まあまあ役に立った	3普通	2あまり役に立たなかった	1役に立たなかった	無回答	5及び4
①地域リハビリテーション支援体制整備推進事業	15	23	13	0	1	1	73%
②リハビリテーション概論	19	24	9	0	1	0	81%
③リハビリテーション専門職の活用 その1 ～市町村介護予防の取り組みより～	21	29	2	1	0	0	94%
④リハビリ潜在需要の早期発見	7	35	8	2	0	1	81%
⑤地域包括支援センターから、 広域支援センターへの相談とその後について	14	29	7	3	0	0	81%
⑥リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテーション 専門職の関わり方①～	15	31	3	1	0	3	92%
⑦リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテーション 専門職の関わり方②～	27	21	2	1	0	2	94%
⑧グループワーク	22	22	3	0	0	6	94%
						平均	86%

6 研修参加広域支援センター職員へのアンケート

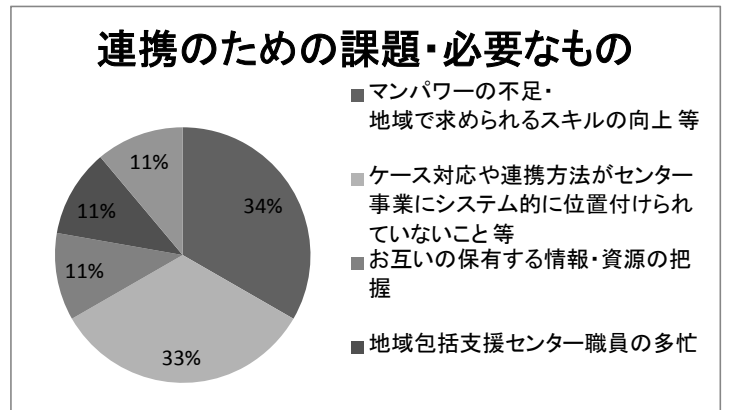
①今後の市町村・地域包括支援センターとの連携の必要性（複数回答有）

既に連携している	7
今後連携していく必要性を感じた	7
市町村・包括からの働きかけがあれば協力を考えたい	1
協力したいが、現時点では難しい	1
現時点では、連携する必要性を感じていない	0



②連携のための課題・必要なもの

マンパワーの不足・ 地域で求められるスキルの向上 等	3
ケース対応や連携方法がセンター事業に系統的に位置付けられていないこと 等	3
お互いの保有する情報・資源の把握	1
地域包括支援センター職員の多忙	1
圏域内回復期リハ病床数の不足・院内スタッフのモチベーション不足	1



(参考) 研修感想より抜粋

①地域リハビリテーション支援体制整備推進事業

- ・事業の概要について理解することができた。
- ・包括とリハ職とのかかわりが増えてきているので事業について講義ただけで勉強になった。
- ・包括が担う地域包括ケアシステムの中にリハを取り入れる必要性を再認識した。

②リハビリテーション概論

- ・リハビリの定義を初め、考え方について改めて理解することができた。ICFの分類を元に、地域リハを実施する意義を学ぶことができた。
- ・リハというものが単なる機能回復だけではないこと、ICFの視点などが改めて理解でき、分かりやすかった。
- ・単に機能訓練という意味だけではない、リハの様々な役割について大変わかりやすい講義だった。

③リハビリテーション専門職の活用 その1 ～市町村介護予防の取り組みより～

- ・過去の制度、また制度改正による事業の変革と、その中でどこも取り組む部署が無くなってしまっていた地域リハの構築の必要について理解できた。
- ・シルバーリハビリ体操を中心に組み込まれていることが分かった。機能訓練は求められているとのことであったが、地域づくりが根底にあって、体操教室等（機能訓練）が普及されているということを理解した。

④リハビリ潜在需要の早期発見

- ・介護予防教室は具体的に何をしているのか、他の市の取り組みを知ることができ参考になった。また昼寝の時間等の話も、予後予測の視点として、ヒントになった。情報収集の際にも活用していきたいと思った。
- ・早期発見するには身体機能の状況把握はもとより、日常生活の過ごし方を細かく知ることによって潜在している要因を知ることができることを学ぶことができた。

⑤地域包括支援センターから、広域支援センターへの相談とその後について

- ・相談内容・連携の実際を伺うことで、今後相談するに当たり具体的なイメージを持つことができた。
- ・包括と広域支援センターがどのような場面で連携を取るべきか・どういった相談にのってもらえるのかよくわかった。
- ・リハ職の視点で見た支援の方法や、リハ職への相談の仕方等よく理解できた。

⑥リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテーション専門職の関わり方①～

- ・普段聞くことのできない内容でとても新鮮かつ勉強になった。田中先生がおっしゃっていたが、訪問すると障害児を抱える家庭もあり、その理解のためにも包括職も学ぶ必要が有ると思った。
- ・成人期の脳性まひ者の、地域での生活実態を把握し、住み慣れた地域での生活を続けるためには、どのような支援が必要なのか、高齢者への地域包括ケアシステムと同じように展開していく必要性を感じた。

⑦リハビリテーション専門職の活用 その2 ～地域包括支援センターとリハビリテーション専門職の関わり方②～

- ・実際に包括と連携した事例を出して下さったのでイメージしやすかった。介護予防教室の実施や初回訪問でリハ職がいてくれたらと思うことは多い。
- ・リハ専門職が関わることでケース本人が自分の身体状況を再認識でき、納得がいったうえで主体的にサービスを利用できる大きなきっかけとなるのがよく理解できた。サポート事業が全県に広がってほしい。

⑧グループワーク

- ・聞き取り・アセスメントに専門職の視点が入ることにより、生活が変化することや重要性が理解できた。
- ・多職種との関わり方や目線等、自分ではわかっていたつもり配慮していたつもりになっていたことに気づかされた。勉強になった。参加型の研修で良かった。

研修全体に対する意見・感想

- ・どういったケースで連携を取ったらよいのかよくわかった。リハ職と関わっていききたい事例はたくさんある。
- ・実際に自分が勤務している包括において、どう地域リハを活用していこうかと考えた。広域が各センターによって行っていることが違うので圏域のセンターがどのような役割を担っているのか把握したいと思う。